

会 議 録

会 議 名	粕屋町まち・ひと・しごと創生推進会議		
開 催 日 時	平成27年8月24日（月） 午前・午後 10時 00分から 午前・午後 11時 45分まで		
開 催 場 所	粕屋町役場 3階 31会議室		
出席者 氏名	委 員	【学識経験のある者】 （会長）宗像 優 【県の職員】 岩切 真弓 【町の区域内の公共的団体の役員又は職員】 八尋 新祐、岡本 房子、安河内 達 【公募等による町民】 大賀 愛、小西 國博、清水 良彦	
	職員・職氏名	【事 務 局】 経営政策課長 山本 浩、総合政策係長 野田 悠紀 総合政策係 木場 洋介、國司田祐己	
欠席委員（者）氏名			
会議の公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 <input type="checkbox"/> 全部非公開		
会議を公開しない理由			
傍聴人の数	0人		
会議資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> ・まち・ひと・しごと創生法の概要 ・粕屋町住マイル調査 ・粕屋町人口ビジョン（素案） ・「粕屋町人口ビジョン」と「粕屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の全体像（案） 		

審議会等の内容

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 協議事項

(1) まち・ひと・しごと創生法について
(事務局から説明)

(2) 住民アンケート調査について
(事務局から説明)

(質疑応答)

委 員 回答が913名とありますが、アンケートの回答の割合として、これは多いほうですか、少ないほうですか。

事務局 回答数は現時点で917名です。締め切り以降に遅れて届く分があるので多少増えますが、大体これくらいの数になると思います。昨年、「住マイル調査」という同様のアンケートをしたときの回収率が40%だったので、今回は回収率が低かったと思います。同時期に他の課で地域福祉に関するアンケートを実施しましたが、やはり回収率が悪く、今回、アンケートを実施する時期が良くなかったと思います。アンケートの回答数は、1,000に近い母数があれば、ある程度信頼は置けるとなっています。前回40%の回答率があったので、3,000人にアンケートを採れば目標の1,000を超えようと思いましたが、目標に届きませんでした。しかし、アンケートの信頼性という意味では、900でも許容範囲には入っていると考えます。

委 員 アンケートを機能的にできる町村役場は非常にうらやましいと思いますが、何が悪いかを浮き彫りにしないと意味がないし、回答率が悪いのはどうでもいいことだと思います。アンケートを採るのであれば、これから役場の仕事はどちらを向いてどうすればいいのかをもっと考えて採っていただくといいと思います。
アンケート結果を公表するとそれなりに見栄えはしますし、アンケート作成時に役場の仕事が増えないよという意識が働いているような気がします。アンケートに答える人の興味を引きながら、もっと内面を引き出せるような工夫をしたほうがいいと思います。

事務局 今回のアンケートの内容は、前半で総合計画の指標を設定する上で必要な質問、後半で総合戦略のKPIの設定に必要な内容ということで取り組みましたので、具体的なことよりも、住民の方が粕屋町をどのように感じているかという質問が多かったので、そのような印象が強くなったのではないかと思います。

委 員 このアンケートは、無作為に3,000名を抽出されたということですが、どういう方法で選んだのですか。

事務局 無作為ですが、年齢層は偏らないように抽出しています。住まいは、設問で得られた結果からクロス集計ができます。確かに偏りはありますが、大きく偏ることはないと思います。

委員 今後の大事なことに関するアンケートで、手間もかけているので、せめて半数以上に回収率が上がるような方法も考えていただきたいと思います。

委員 質問の主語に、「あなたは」と「粕屋町では」がありますが、どういう観点で答えが挙がると思われたのですか。

事務局 質問の前半は、総合計画を策定している関係で採ったアンケートになります。先ほど、まちづくりの課題が見えるアンケートをと言われた分は、昨年8月下旬～9月にアンケートを採って計画を作っています。その中で客観指標と実感指標を立てていますが、その実感指標の30施策について住民の思いを聞くということで、今回は2回目のアンケートになります。30施策は、それぞれの部署と調整しながら代表的な部分を挙げた形なので、粕屋町として見える部分と、住民の方がその施策に対してどのような心掛けや取り組みをやっているかという部分が入っているために、「あなたは」と「粕屋町では」という2つ主語が混在しています。

我々も回収率を上げたいという思いで取り組んでいます。昨年、同時期に採った男女共同参画のアンケートも20%台と低い回収率でした。昨年8月下旬の総合計画のアンケートは、41.4%と少し高く、対象の3,000人に「ありがとうございます」と「まだ出されていない方は、アンケートの提出をお願いします」という手紙を出しました。今回はできませんでしたが、今後はそういう努力もしたいと思います。また、組長にアンケートを配ってもらって非常に高い回収率を出している自治体もありますので、今後、検討していきたいと思います。

委員 私たちも仕事上、アンケートをもらったり出したりしますが、件数が多いと嫌だなと思ったり、興味があるかないかでアンケートを返したり返さなかったりあると思います。興味がないという結果がこのアンケートの回収率に反映されているのであれば、チラシを置かれている「かすや未来カフェ」もどうなるのかなど不安ですが、何か参加者を募る方策は考えているのでしょうか。

事務局 「かすや未来カフェ」は、普段、役所の会議にお見えにならない方で、まちづくりに興味を持っている方に幅広く来ていただきたいという思いで開催しています。多数の応募があるわけではないので、去年はポスティングをしたり、長者原駅でサラリーマンなどに配布したり、Facebookやホームページを使って募集しました。こういうことをやっていることを知ってもらって、興味を持ってもらうことが大事だと思いましたので、今回は広報に入れて、全世帯に配ります。

委員 先ほど私が申し上げたのは、「あなたは」と「粕屋町では」はどのような観点なのか分かるように、一言説明が足りないということです。私は40年ぶりに戻ってきて、同級生はそのうちだんだん分かってくるとか、昔からこうなっているからそういう人はいないと言いますが、昔と違って混住化してくると育った環境も生活も違うため、勝手な解釈をしてしまうこともあると思います。

会長 どの質問項目のどの辺りが分かりにくいのか、具体的に示していただけませんか。

委員 例えば、問4の「11. 粕屋町では、円滑に移動できる道路網が整備されていると思いますか」や「12. 粕屋町では、公共交通を利用しやすいと思いますか」で、駅から遠い人は、「私の所は遠いけれど、JRの駅が6つもあって篠栗線の本数も多くなったので、町の人はおおむねこうだろう」という答えになりはしないかということです。中学1年生の時、社会科の授業で村の1日のバスの本数を調べたことがあります。酒殿は43本で1時間に3本ありました。また、志免のバス停

は、5分おきと書いてありました。今、酒殿は1日20本もなく、昔のほうが便利でした。今と昔の感覚の違いもあると思いますので、答える人に真意が伝わるような言葉で書いていただきたいと思います。

事務局

今回は、指標を設定する中で、今現在町民の方がどのように思われているかということで、この質問は今後5年間続けていこうと思っています。住民の方にそういう意識が浸透していき、町自体が変われば数字も変わっていくと思います。

指標を設定する時点で、交通については個人差や地域差があって答えが明確に出てこないのではないかと思われると思いますが、高齢者の方、障害者の方、子育ての方と個別の分野に分けずに、町民全体の中でどう思われているのかを採っていく形で質問をさせていただきました。去年のアンケートでは、いい点として「交通の便」が出ていましたが、「交通の便をもっと良くしてほしい」という意見も1番に挙がっていました。粕屋町に住んでいる方にとって、交通は共通した意識の中で考えられる項目として捉えられているということで、総合計画の策定にあたっています。あくまでも、現時点の相対的な町民の意識を確認するためのアンケートと捉えていただきたいと思います。

会 長

現状のアンケート用紙は、「あなたは」と「町では」という2つの問いかけ方で、「あなたは」の項目では町民個人の意見を聞いて、「町では」の項目では町の状況についてどう考えているかを聞くということで、すみ分けのために主語を明確に変えているということが伝わります。

例えば、問4の「1. あなたは、地域行事に日頃から参加していますか」や「2. あなたは、ボランティア等、粕屋町のまちづくりに参加したいと思いませんか」は、市民参加に関するアンケート項目で、町民自身が普段からどういう行動をしているかを知りたいという意図で主語を「あなたは」にしていると思います。これを「粕屋町では」だと、1番は「粕屋町では地域行事に参加する制度ができていると思いませんか」、2番は「粕屋町ではまちづくりの参加のための仕組みが整っていますか」となり、質問の意図が変わってしまいます。このアンケートを取り扱う部署は、なぜ主語や問いかけ方を変えているかを把握して、アンケートを集計し、読み取る必要があると思います。

また、「12. 粕屋町では、公共交通を利用しやすいと思いませんか」で、駅に近い人は便利だと答えるかもしれないし、遠い人は不便だと答えるかもしれないという懸念が示されましたが、この質問は粕屋町全体として公共交通機関が便利なのかという問いかけなので、駅から近い人も遠い人も客観的に答えるだろうという期待があります。

今回は、アンケートが既に実施されていますので、頂いたコメントを次回以降に踏まえていただければと思います。このアンケートは8月10日に締め切られていて、8月24日現在で917という回答ですが、これから増えることはないのですね。

事務局

先週までの分を足して917ですので、これ以降、足さないようにします。

会 長

3,000票を送って回収率が3割弱で、少ないのではないかとということですが、一般的には1,000くらいあれば信頼できるアンケートということで、917はぎりぎりいけるということです。今後、どういう形で集計して、いつ結果が出るのですか。

事務局

結果は、集計後、分析をして出したいと思います。問12以降の総合戦略の部分の結果については第3回の会議に間に合うように出したいと思います。

委 員

これから毎年アンケートを採るのならば、いつから始めて、今回は何回目、

年に1回採っているというように、流れの中にアンケートがあるということが町民に分かるような書き方をしたほうがいいと思います。

事務局 次回からは、継続的に進行管理する目的で採らせていただくという内容を入れたいと思います。

会長 協議事項（3）について、説明をお願いします。

（3）粕屋町人口ビジョン（素案）について
（事務局から第2章2－（1）以降の説明、「粕屋町人口ビジョン」と「粕屋町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の全体像（案）の説明）

（質疑応答）

委員 これから先の人口予想はよくできていると思いますが、統計的な推計で出た答えを将来の目標にするのは、行政の判断として正しくないと思います。根拠のある分析からデータを作っていますが、現場ではその裏付けをきちんとしなければいけないと思います。例えば、将来66,000人という数字が出ていますが、その受け皿や盛りつけ方なども考えて、実現可能な数字を考えなければいけないと思いますし、町民の気持ちとして、これ以上人口が増えるまちを期待しているのかどうか。政令指定都市である福岡市と、粕屋町ではスタンスが違うと思います。

また、これから人口が増えてインフラが追い付くかどうかです。66,000人になると、小学校が2つと中学校が1つ要すると思いますが、町の外れに粕屋中学をつくらなければいけなかったという反省を踏まえた上で、土地の手だても考えなければいけないと思います。粕屋町は、便利だから人が寄ってくるという評価をされていますが、私は福岡市が満員だから、そこそこのところで折り合いを付けたら粕屋町だったと考えます。駅の近くで便利はいいけれど、中学校は遠いので、その時は引っ越せばいいというふうに、インフラが追い付くかどうかもある必要があるし、多世代が住める家は見当たらないという現実も考えていただきたいと思います。

それから、規制緩和が進み、ふるさと納税、TTPの問題、減反などの農協改革、国を挙げて人の流れを変えようと、ひと・まち・しごと創生で、世の中が大きく変わろうとしています。これらを見据えて、これから先、世代交代していくことを前提にしたまちになるのかなということと、6万人にまで人が増えたら困るのではないかという感じを受けました。

ビジョンや計画を基本に役場の職員が動いて、各町内の団体が動いて物事を実現すると思いますので、きちんと分かるように書かなければいけないと思います。会長が言われたように、「現状と課題」と「展望」が私たちにとって一番大事なところですが、「現状と課題」で課題が書かれていません。ここをきちんと書いておかないと、PDCAのPで止まって回りません。これから我々は何をしなければいけないか、現状分析を書く必要があります。また、「人口の変化が地域の将来に与える影響」では、学校をどこに造るかなどのインフラが付いていくかが一番大事なことではないかと思います。これ以上住宅が増えると、交通の混雑、大雨の時の水はけの問題、ヒートアイランド現象など、環境面で失うものがあると思いますので、5年、10年で解決できる大きな課題と小さな課題などを整理する必要があります。

それから、「めざすべき将来の方向」に、「人口の現状と課題及び人口ビジョンにおける重点課題を踏まえ」と書いてありますが、重点課題が書かれていないのはどうしてでしょうか。また、「地域の資源や特性を活用し」と書かれているところの「資源」や「特性」が何なのかを私たちに教えていただかないと、どう議論

していいのかわかりません。

今までの経験から、やるときには「行います」や「実施します」、「実行します」と書いています。「検討します」や「努力します」「努めます」「推進します」という文でくくられている文章は、実行された試しがありませんので、このような言葉は使わないでいただきたいと思います。

事務局

今回協議していただく総合戦略は、国から出された人口問題や東京一極集中の問題をどう解決していくかという方向性に基づいて、粕屋町がどのような取り組みをしていくかを考えるということで取り組んでいます。その考え方の柱の1つになるのが人口ビジョンです。

委員のご意見で一番大事なのは町民の意識だと思います。町民が、人口が伸びていくことを望むのか、望まないのか。まちづくりをする上で必要性を感じる町民が多いのか、多くないのかを、自治体として見据えながら進めなければいけないと思います。

現在、総合計画も策定していますが、その中では、今後人口が伸びていくということに対して抵抗があるとは感じていません。粕屋町の魅力として、都市と自然のバランスを望まれている方がたくさんおられますので、インフラをどういうふうに整備するか、人口が66,000人になる過程でどういうところに可住地を造るのかは、今後検討する必要があると思います。

総合戦略の3番目の「協働でつくる安心のまち」で、「まちと緑がとけあうコンパクトな都市づくり」の中では、「計画的な都市づくりの推進と秩序ある土地利用の形成」という内容で、今後、部会等で協議をして具体的な内容を示したいと思います。人口を増やしていく上で、インフラをどう計画していくかは大きなポイントだと思います。

委員

何人になったら市になるのですか。

事務局

人口でいうと5万人ですが、他にも中心市街地に6割以上の方が住むとか、福祉施設を設けなければいけないとか、県で指定されている施設なども造る必要があるなどの条件があります。

委員

パターン3-②でいうと、いつですか。

事務局

32ページのグラフのパターン3-②でいうと、2025年の国勢調査の実施年に5万人を超えていますので、仮に市になるとすれば2025年以降になります。

委員

市になるイメージを持って学校や仕組み自体を考えなければいけないと思っています。仮に交流イベントの施策を入れていると言われましたが、「未来カフェ」などは取り組みを始めていて、いいと思います。

事務局

「未来カフェ」や「よさこい」など交流イベントについては既に取り組んでいることがあるのですが、第5次総合計画の施策で掲載が分かれていますので、総合戦略ではこれらを1つにまとめて挙げさせていただいています。

委員

P T Aでは、保護者と学校と地域で関わりながら子どもを育てていくことが大事だと思いますが、新しい方が多い地域では、地域は関係なく自分だけ良ければいいという感覚の方もいるということも認識して、9月以降の専門部会で検討していただきたいと思います。

また、地域包括ケアシステムの中の「共助」を強化しなくてはならないと思います。子どものときから教育をすることが大事ということ、また将来、高齢化率

が上がったとき、家を持ったファミリー世帯がその親を呼んだ場合、さらに高くなる可能性があるということも、専門部会で検討していただければと思います。

会 長 「現状と課題」を示す場合、それに対する対策を示す必要がありますので、例えば委員から出た対策は、27 ページの人口ビジョンに書くのか、29 ページの「めざすべき将来の方向」に書くのか、地域戦略ということで別に書くのかを検討する必要があります。

事務局 「現状と課題」に関しては、内容を見直して追記したいと思います。対策については、「現状と課題」に載せた内容が 29 ページの対策に引き継がれる書き方になるように検討させていただきたいと思います。

委 員 「現状と課題」では現実を語って、「将来展望」では達成できる夢を語っていただきたいと思います。30 ページに「今後本町が取り組む施策による効果を期待した仮定値を設定しています」とありますが、具体的な数字を示していただくと議論しやすいと思います。

事務局 参考としての話はできると思いますが、具体的な部分は、都市計画の分野など、具体的なところで話す必要があると思います。

委 員 福岡市から粕屋町への転入が多く、粕屋町から近隣の町へ転出される方が多いと資料にありましたが、近隣の町と粕屋町を比較して、理由を追及する必要があると思います。また、定住のための環境がないと、人の動きは止まらないと思います。

事務局 今の段階では具体的な対策は取っていませんが、全国的には税的な助成や補助金的な助成を行っている自治体も出てきていますので、粕屋町としてどういうことをやるか、やらないかを含めて、今後、専門委員会で検討したいと思います。

委 員 福岡都市圏で、粕屋町の持ち家比率は低いほうから 2 番目だと言われました。福岡県は全国の持ち家比率で 4 番目に低いので、粕屋町の持ち家比率は全国の町村の中で非常に特異な状況にあり、参考になる事例はないと思いますので、しっかり勉強して独自の対策を立てなければいけないと思います。

事務局 課題として持ち家率が低いと書いていますが、人口の入れ替わりが多いということで、高齢化率を抑えているという意味合いもありますので、今後、戦略を考えていく中で、持ち家率が低いのは悪いことばかりではないという観点も持ちながら検討する必要があると思います。

会 長 今日出たコメントを踏まえて事務局に整理していただいて、次回の会議で検討する形でよろしいですか。

事務局 次回から総合戦略の内容に入りたいと思いますが、人口ビジョンに関して国から新しいデータも出る予定ですので、資料を追加して、修正を加えた人口ビジョンをお送りしますので、そちらに関するご意見も頂きたいと思います。

会 長 委員の方で、コメントや言い忘れたことなどがありましたら、9 月末までに、事務局にメールでお伝えください。

4. 事務連絡

事務局

次回推進会議日程：11月（予定）粕屋町役場3階 31会議室
9月27日（日）、「かすや未来カフェ」開催予定

5. 閉会